

自己の生き方を考える探究的な職場体験学習

一 勤労観・職業観をはぐくむための指導計画の作成 一

総合的な学習の時間研究会議

安田 健二¹ 堀田 英史² 滝澤 純子³ 藤代 崇行⁴

要 約

新しい学習指導要領の総合的な学習の時間の目標には、課題解決に向けての過程が強調され「探究的な学習」、「協同的な学習」の2つがキーワードとして示されている。本研究会議では、総合的な学習の時間に行う職場体験学習を探究的、協同的な学習にする在り方を研究し、勤労観・職業観をはぐくむことに取り組んだ。小学校での検証授業では、発表会の前に発表を見せ合い、付箋を用いてアドバイスし合うことが、自らの取組を振り返り、発表会に向けてより工夫することや、明確な目的をもって調べることが自分の課題を見つけるのに有効であることがわかった。それらを参考に、探究的、協同的な学習の視点を明確にした職場体験学習の指導計画を作成した。

この指導計画を基に検証授業を行い、職業講話ではテーマを提示し、それについて数人の講師に話をしてもらった。働くことや職業に就くことに関するテーマに絞ることで、仕事内容よりも働くことを理解するというねらいに沿うことができた。探究的に職場体験学習を行うには、なぜ働くことについて学ばなければならないのかという疑問をもたせる必要がある。求人案内作りや身近な人へのインタビュー、職業講話などを通して、実際に働く人から話を聞いたり、内容について考えたり、友達と相談したりすることで疑問が生まれ、自分の課題が見つかり、自己の生き方を考える職場体験学習になると考える。

キーワード：探究的な学習、協同的な学習、職場体験学習

目 次

I 主題設定の理由・・・・・・・・・・114	III 研究のまとめ・・・・・・・・・・127
1 主題について・・・・・・・・・・114	成果と課題・・・・・・・・・・127
2 勤労観・職業観をはぐくむ総合的な 学習の時間の在り方・・・・・・・・115	参考文献・・・・・・・・・・128
II 研究の内容・・・・・・・・・・118	指導助言者・・・・・・・・・・128
1 研究の仮説・・・・・・・・・・118	
2 研究の方法・・・・・・・・・・118	
3 検証授業の実際と考察・・・・・・・・118	

¹川崎市立田島中学校教諭（長期研究員）

²川崎市立臨港中学校（研究員）

³川崎市立宮内小学校（研究員）

⁴川崎市立大谷戸小学校（研究員）

I 主題設定の理由

1 主題について

平成 19 年度、神奈川県内の市町村立小・中学校における職場体験の実施状況は小学校で 6.8%、中学校では 89.4%となっており、¹⁾ 中学校ではキャリア・スタート・ウィーク²⁾をはじめ、年々その割合は増加傾向にある。また、小学校では働く人へのインタビューや職場見学など、地域社会と関わる体験活動を行っている。児童生徒は、このような体験活動に意欲的に取り組むことによって働くことについて学んだり、働く人々とのふれあいを通して感動したりすることができる。そして、それらの体験活動は児童生徒一人一人が自分の将来について考えることにもつながっている。

しかし、一方では職場体験について「体験あって学びなし」という声も聞かれる。私自身も「体験が学習として引き上げられているのだろうか」「おもしろかった、楽しかっただけで終わっていないだろうか」と考えることも多い。つまり、体験そのものが目標となってしまう、体験を通して何を学ばせたいのかという学習としての課題意識が薄れているのである。

このような指摘に対して、本研究会では次の 2 点について考えた。

1 働くこと、職業に就くこととはどういうことなのかを考えさせる

職場体験に向けた事前学習で「調べたい職業が見つからない」「やりたい仕事がない」という生徒も少なくない。そのような生徒はなんとなく選んだ職場で体験を行うので、将来の職業を考えるという目的や働くことを通して何かを学ぶという意識がなく、体験の面白さだけに注目してしまうのではないかと考える。今まで将来の職業について考えたことがないのに、職場体験だからといって、すぐに体験する職場を決めるのは難しいのではないかとと思われる。

また、職場体験を行う場所は安全面や生徒指導上の理由から学校の周辺に限られている場合が多い。したがって、すべての生徒が希望している職場で体験できるとは限らない。このことから自分の興味がある職業と体験場所とを関連付けることができない生徒も多いのではないかと考えられる。

職場体験学習において、実際に体験できる職場の仕事内容や特徴を調べたり、希望する職種を広げたり、事前訪問で実際に働いている人にインタビューしたりするのはとても重要である。生徒はこうした取組から働いている人の仕事に対する思いや喜び、苦労などを知ることができ、働くことについて自分なりに考え、将来の職業についても考えることができるのではないかとと思われる。

2 探究的な学習や協同的な学習を通して、課題に取り組み、勤労観・職業観をはぐくむ

平成 20 年 3 月 28 日に文部科学省は新しい学習指導要領（以下、「新学習指導要領」と記す）を告示した。現行の学習指導要領では総合的な学習の時間は総則に位置付けられているが、新学習指導要領では第 4 章として位置付けられたことから総合的な学習の時間をより一層充実させていく必要があることがうかがわれる。

中学校新学習指導要領 第 1 章 総則第 3 の 5 において「総合的な学習の時間における学習活動により、特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施と同様の成果が期待できる場合においては、総合的な学習の時間における学習活動をもって相当する特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施に替えるこ

1) 神奈川県教育委員会「平成 19 年度 学校教育活動等の取組に関する調査のまとめ」

2) 中学校において 5 日間以上の職場体験を行う学習活動

とができる。」と記されている。即ち、総合的な学習の時間において職場体験学習を行うならば、総合的な学習の時間のねらいに沿って行う必要があることが明確になった。このことから職場体験学習においても自ら課題を設定し、その解決に向けて探究的、協同的に学習していく必要がある。探究的、協同的な学習を通し、自分の興味のある職業と実際に体験できる職場を関連付けることによって、職業をより深く理解することができるのではないかと考える。

以上のことから、本研究会議では総合的な学習の時間における探究的、協同的な学習を通して、自己や職業に関する理解を深め、勤労観³⁾・職業観⁴⁾をはぐくむことができる職場体験学習の指導計画を提案したいと考え、研究主題を次のように設定した。

自己の生き方を考える探究的な職場体験学習
 ― 勤労観・職業観をはぐくむための指導計画の作成 ―

2 勤労観・職業観をはぐくむ総合的な学習の時間の在り方

(1) 総合的な学習の時間におけるキャリア教育

中学校新学習指導要領において職場体験学習を総合的な学習の時間に行うならば、総合的な学習の時間のねらいに沿って行う必要があることが明確になった。以下は新学習指導要領における総合的な学習の時間の目標である。

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

中学校新学習指導要領 第4章 総合的な学習の時間 第1 目標

目標の記述から明らかなように、生徒が「自己の生き方を考えることができるようにする」というのは総合的な学習の時間のねらいの一つである。さらに、「探究的な学習」「探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度」という部分では課題解決に向けての学習過程が強調され、総合的な学習の時間としてのねらいが明確に示されている。

次に、キャリア教育との関連を考える。文部科学省は「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議」の報告書（以下、「報告書」と記す）（平成16年1月）において、キャリア教育を「勤労観・職業観を育てる教育」と説明している。学校の教育活動におけるキャリア教育について鹿嶋⁵⁾は、「小学校では日常生活や社会との関わりや他者や社会との関わりなどのコミュニケーション能力や人間関係を育てることが大事である。中学校では職場体験がキャリア教育の柱であり、総合的な学習の時間に行うのならば課題探究的、教科横断的、総合的であることが原則となる。それには事前事後

³⁾ 勤労観：日常生活の中での役割の理解や考え方と役割を果たそうとする態度、および役割を果たす意味やその内容についての考え方(価値観)

⁴⁾ 職業観：職業について理解や考え方と職業に就こうとする態度、および職業を通して果たす役割の意味やその内容についての考え方(価値観)

⁵⁾ 鹿嶋研之助 千葉商科大学教授 国内研修より

の学習が大事であり、『なぜ職場体験を行うのか』『職場体験を通して何をを知りたいのか』『働くことの楽しさとは何だろう』などの体験学習のねらいを明確にもって取り組めるようにしなければならない」と述べている。

次に、中学校新学習指導要領 第4章・総合的な学習の時間において、キャリア教育に関する記述は以下のように示されている。

第3の1 (5) 職業や自己の将来に関する学習活動
 第3の2 (3) 職場体験活動
 (4) 体験活動については問題の解決や探究活動の過程に適切に位置づけること
 (7) 職業や自己の将来に関する学習を行う際には、問題の解決や探究活動に取り組むことを通して、自己を理解し、将来の生き方を考えるなどの学習活動が行われるようにすること

(中学校新学習指導要領 第4章 総合的な学習の時間編 第3より抜粋)

キャリア教育は学校の教育課程全体を通じて取り組まれることが基本ではあるが、総合的な学習の時間における職場体験学習が教育課程を編成していく上で中核になる取組だと考えられる。そして、実際に働くという体験を通して働く意味について考え、自分自身を見つめ、将来の生き方を考える機会をもつことができる。この経験が勤労観・職業観を育てるというキャリア教育につながるのではないかと考える。

(2) 総合的な学習の時間ではぐくむ資質や能力及び態度の及ぼす影響

図1はベネッセ教育研究センターが行った「仕事の充実感」と「小・中学校時代の体験」の関係についての調査である。現在の仕事に対して「充実感が高い人」「充実感が平均的な人」「充実感が低い人」と分け、それぞれが小・中学校時代、各項目について得意だったかどうかを質問し、現在の仕事に対する充実感とどのように関係しているかを調べたものである。質問項目の内容は総合的な学習の時間で示されている「育てようとする資質や能力及び態度」⁶⁾(表2)を具体的に表したものである。調査の内容を見ると、「わからないことや知らないことを調べてみること」が小・中学校時代に得意だったかという質問に対して、現在の仕事に対して充実感が高い人の79.9%が得意だったと答えたのに対し、充実感が平均的な人は70.6%、充実感が低い人は63.5%となっている。この調査結果から総合的な学習の時間の取組ではぐくまれる資質や能力、態度についての自己肯定感や自己有用感が将来の仕事の充実感に関係しているのではないかと考えられる。

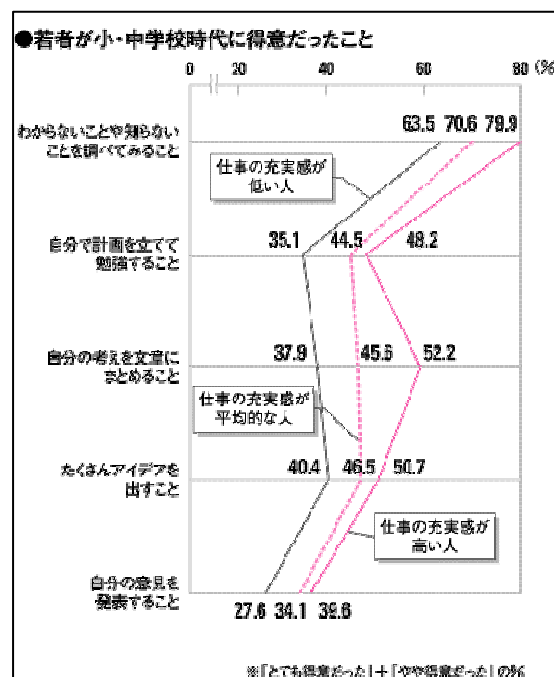


図1 若者の仕事生活実態調査
 ベネッセ教育研究センター
 調査時期：2006年1月
 調査対象：25～35歳の男女
 2500人(学生を除く)
 調査方法：インターネット調査

⁶⁾ 中学校新学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 第5章 第3節 P.58

総合的な学習の時間において育てようとする資質や能力及び態度

表 2

学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること
複雑な問題状況の中から適切に課題を設定する	自らの行為について責任をもって意思決定する	異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重する
仮説を立て、検証方法を考え、計画を立案する	目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に行動する	互いの特徴を生かし、協同して課題を解決する
目的に応じて手段を選択し、情報を収集する	自らの生活の在り方を見直し、日常的に実践する	環境の保全を考えて行動する
必要な情報を収集し、多角的に分析する	自己の将来を考え、夢や希望をもつ	課題の解決に向けて社会活動に参画する
複雑な問題状況における事実や関係を把握し、自分の考えをもつ	など	など
視点を定めて多様な情報を分析する		
課題解決を目指して事象を比較したり、因果関係を推測したりして考える		
相手や目的、意図に応じて、論理的に表現する		
学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとする		
など		

(中学校新学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 第5章 第3節より抜粋)

(3) 総合的な学習の時間における探究的な学習

職場体験学習をどのように取り組んでいけば探究的な学習にすることができるのかを考える前に、総合的な学習の時間における探究的な学習とは何かを明らかにしておく必要がある。中学校新学習指導要領解説には探究的な学習にするための4つの学習過程が示されている。⁷⁾ 以下は探究活動と協同的な活動の内容を説明したものである。協同的な活動では、問題の解決や探究活動を持続させたり、繰り返させたりすることができ、一人一人の考えを深め、自らの学習に対する自信と自らの考えに対する確信をもたせることにつながるとしている。⁸⁾

1 学習過程を探究的にすること

探究的な学習とするためには、学習過程が以下のようになることが重要である

- 【課題の設定】体験的な学習などを通して、課題を設定し課題意識をもつ
- 【情報の収集】必要な情報を取り出したり収集したりする
- 【整理・分析】収集した情報を、整理したり分析したりして思考する
- 【まとめ・表現】気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する

2 他者と協同して取り組む学習活動にすること

- ・多様な情報を活用することができる
- ・異なる視点から考えることができる
- ・力を合わせたり交流したりすることができる

(中学校新学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 第8章 第2節より抜粋)

⁷⁾ 小・中学校新学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 第8章・第2節 総合的な学習の時間の学習指導のポイント 1 学習過程を探究的にすること P.96

⁸⁾ 小・中学校学習新指導要領解説 総合的な学習の時間編 第8章・第2節 総合的な学習の時間の学習指導のポイント 2 他者と協同して取り組む学習活動にすること P.102

図3はそれらの活動を一連の流れにし、連続している様子を表したものである。このような流れで職場体験学習をねらいに沿って行うことで学習活動の探究的な学習が成立する。



図3 探究活動のサイクル

II 研究の内容

1 研究の仮説

前述の「主題設定の理由」から、本研究会議では次のような仮説を立てた。

総合的な学習の時間において職場体験学習を探究的、協同的な学習にすることによって、生徒に勤労観・職業観をはぐくむことができる。

2 研究の方法

- (1) 先行事例や文献から総合的な学習の時間における探究的、協同的な学習の在り方を模索する。
- (2) 総合的な学習の時間において探究的、協同的な学習の取組を考え、実践する。
- (3) 探究的、協同的な学習に取り組むことを基にした職場体験学習の指導計画を作成する。

3 検証授業の実際と考察

(1) 検証授業 A 小学校4年 「草木が変身！紅花マジック」

主な学習活動

第1時	地域の紅花の先生にお話を聞いて自分の課題を考える。
第2～7時	自分の課題を基に、摘んだ紅花で何をしたいかを考え、作り方などを調べる。 紅花を摘みに行く。 摘んだ花びらの処理をする。
第8～17時	花びらを発酵させる → 紅花染め 作品や体験・調べたことから友だちに伝えたいこと、わかったこと、感じたこと、考えたことなどをまとめ、報告会の資料を作る。
第18～20時	報告会を開いて、他のグループの発表を聞き、意見交流を行う。

① 探究的な学習における目的と視点

今回の検証授業では、発表会の前にこれまでの学習の成果を互いに見せ合う。そして、アドバイスを基にこれまでの取組を振り返り、どのような形で発表するか、どうすればうまく伝えられるかなどについてグループで意見交換し、よりよい発表のために工夫することをねらいとした。

協同的な学習をうながす手立てとして、グループ同士で学習の成果を見せ合い、気づいたことを「良かったところ」「がんばってほしいところ」として色別の付箋に書いて、相手グループの一人一人に渡すようにした。

② 探究的・協同的な学習における具体的な児童の活動

探究活動 (まとめ・表現)	友達からのアドバイスを受け、これまでの取組を振り返りながら伝えたい内容について見直し、よりよい表現方法を工夫する
協同的な活動	友達と伝えたい内容について意見交換することで、これまでの取組に対する考えを互いに深める

③ 本時の展開 (18/20時)



探究活動・協同的な学習

子どもたちの活動と学びの姿	探究的、協同的な活動
1. 本時の活動を確認する	《情報収集》
2. 2グループ1組となって、 発表を見せ合い、良かったところ、直すところを伝え合う	互いに発表を見せ、アドバイスを送り合うことで、改善点を明確にし、よりよい発表にするための情報を手に入れる
①Aグループの発表についてBグループからアドバイスを送る ・図がとても見やすかった ・動作を入れるのは大事などところだけにするといいね	《協同的な活動》 異なる視点からの意見交換が行われることで、発表の内容についての考え方が深まる
②Bグループの発表についてAグループからアドバイスを送る	
3. グループに分かれて 相談しながら発表の内容や方法について話し合い、個人またはグループで練習をする	《整理・分析》 アドバイスによって得た情報を整理、分析し、発表の内容や方法を検討し、改善する
・アドバイスしてもらったところを直そう ・やってみるから見てね ・さっきよりわかりやすくなったかな	《協同的な活動》 グループでの話し合いを通して、力を合わせて取り組むことの大切さを実感する
4. もう1度、2グループで発表を 見せ合い、評価する	《まとめ・表現》 伝えたい内容をまとめ、表現方法を工夫する
・アドバイスしたところが工夫されているね ・なんて言われるか楽しみだな	《協同的な活動》 互いの発表を評価する
5. 振り返りをする(個人)	
・声を大きくしてわかりやすく説明できた ・絵の見せ方を工夫し、見やすくした ・ほめてもらってうれしい	

④ 授業の感想と評価

○ピンクのカード(良かったところ)の感想 「うれしい」「また、ほめられるようにがんばろう」など、発表会に向けて意欲が高まっている様子が伝わった。
○ブルーのカード(がんばってほしいところ)の感想 「声をもっと大きく、ゆっくりと」「説明がわかりにくかった」「絵にしたほうがいい」「〇〇さんの出番が少ない」など、友達と相談し、発表の内容を検討しながら、これまでの取組を見直したり、改めて気づいたりすることができた。
○振り返りの感想 「しっかり見てくれるのでうれしい」「アドバイスを生かそう」「自分でもわからなかった」など、アドバイスに対して前向きにとらえているものが多く、発表の内容や方法についてさらに工夫してみようという様子が見られた。

⑤ 考察と今後の課題

互いに発表を見せ合い評価することによって、これまでの自分の活動を振り返りながら発表の内容を整理することができた。そして、アドバイスや話し合いを通して、伝えることの難しさを実感したり、アドバイスを受けて直したことを認められたり、評価される喜びを感じたりすることができた。声の大きさなどの形式的な指摘ではなく、発表の内容や表現の工夫などに関するアドバイスによって、紅花に関する取組を見つめ直し、発表の内容や表現方法をより深く考えることができた。

また、色分けされた付箋を用いることで次のような効果が得られた。

- ・一人一人にアドバイスを書くことで、真剣に観察する様子が見られた。
- ・具体的なアドバイスをもらうことで、改善するポイントが明確になり、自分の活動を振り返り、それをよりわかりやすく伝えるにはどうしたらよいか考えるきっかけとなった。
- ・グループの話し合いの課題が色分けされた付箋によって示されることで、活発な意見交換ができた。
- ・何を、どのように伝えるかを試行錯誤し、これまでの自分の取組を振り返ることで自分自身に自信もつことができ、今後の取組への意識が高められた。
- ・観点が示されているので、相手の発表を見て具体的にアドバイスすることができた。

探究的な学習における「まとめ・表現」に重点を置いて授業を行ったのだが、展開の中の一つ一つの活動を見てみると付箋のアドバイスによる情報収集やアドバイスの整理・分析という探究的な活動が含まれていることがわかった。今後の課題として、発表を見せ合い、一人一人の良い所を探して意見を述べ、評価し合うという場面において、活動したことをよりわかりやすく表現できているかという視点でアドバイスを送る手立てがさらにあるのではないかと考えられる。

(2) 検証授業 C 小学校 6 年

「みんなで生きる町～外国の人と共に生きていくために自分たちにできることは何かを考える～」

主な学習活動

第 1 時	外国の人が困っていることについて駅や病院などに行って調べる。
第 2 時	身のまわりの外国の人やものについて調べる。
第 3～4 時	身のまわりの外国の人やものについてどんなことを調べていけばよいか考える。
第 5 時	ブラジルでの勤務経験のある先生の話聞く。
第 6 時	身の回りの外国の人やものについて調べたことの発表準備をする。
第 7～8 時	身の回りの外国の人やものについて調べたことを発表する。
第 9 時	発表を通して、外国から日本に来た人が困っている様々なことについて考える。
第 10 時	外国出身のゲストティーチャーから話を聞く。
第 11 時	外国の人にもやさしいまちづくりで、自分たちにできることを考える。
第 12 時	川崎市ではどんな取組をしているのか調べる。
第 13 時	国際交流センターの人に話を聞く。
第 14～18 時	自分たちができることは何かを考え、活動を計画する。
第 19 時	自分たちが取組もうとしていることを提案し、アドバイスを聞く。
第 20～27 時	かがやきフェスタに向けて準備する。
第 28～29 時	かがやきフェスタで発表する。
第 30 時	振り返り、今後へ生かす。

① 探究的な学習における目的と視点

これまでの学習において、自分たちの地域で外国の人が困っていると思われることを調査したり、便利だと思われる表示を調べたりした。そこで得た情報を基に多くの問題点を挙げ、解決策について

話し合ってきた。今回の検証授業では、これまでの解決策について、自分たちにできることをテーマとしてクラスで話し合い、整理・分析しながら具体的な取組の方法を探っていくことをねらいとした。

② 探究的・協同的な学習における具体的な児童の活動

探究活動 (整理・分析)	日本で暮らす外国の人が困っていることを調査した結果から、問題点について話し合い、整理・分析しながら自分たちができることを考える
協同的な活動	今までに挙げた問題点についてクラスで意見交換し、自分たちにできる解決策について検討していくことで一人一人の考えを深める

③ 本時の展開 (11/30時)

探究活動・協同的な学習

子どもたちの活動と学びの姿	探究的、協同的な活動
<p>1. 本時の活動を確認し、学習の見直しをもつ</p> <p>2. 前時にクラスで出し合った「外国の人が困っている ことに対する解決法」について話し合う</p> <p>（話し合いの流れ）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① これまでの学習から、外国の人がどのような場所や場面で不便を感じたり困ったりするのかを 発表し、話し合う ② 話し合いを通して、自分たちにできることは何かを考え、メモ用紙に書く （例）〇〇で困っている → 〇〇を考える / 変える / つくる / する ③ 自分が書いたメモ用紙を場所や場面ごとに分類されたシートに貼っていく *メモ用紙を貼るときに他の友達のメモ用紙を参考にして書き直してもよい <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>文化・マナーのちがいを</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マナーブックをつくる → どんな内容を入れるの？ ・マナー教室を開く → どんなマナーを教えるの？ <p>地震が起きたら・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震教室・講座を開く ・マップ・本をつくる → どんな内容を入れるの？ ・回覧板で教える <p>言葉が通じない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通訳の人をつける → 全員につけられるの？ ・マーク・共通語をふやす → どんなものが必要？ ・手話 <p>子どもの教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国の人のための学校・塾 → その国の人だけ？ 日本人は？ <p>病院に行ったとき困る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マークをつける → どんなマークが必要？ ・通訳・外国人スタッフをおく → 何人くらい？ </div> <div style="width: 45%;"> <p>イベントに参加しづらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国の人の立場になって考える ・ポスターなどで募集する → どんなイベントにしよう？ <p>外国＝アメリカの意識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語以外の表示をする ・演説で人々の考え方を变える <p>どこに行けばいいかわからない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多言語の案内板や標識をつける → 何語をのせるの？ 何ヶ国をのせるの？ ・ガイドブックをつくる → どんな内容をのせるの？ <p>生活のルールがわからない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近所の人が教えてあげる → 現在の状況は？実際にできるの？ ・ルールが書いてある手紙、資料、マニュアル・ガイド → どんな内容を入れるの？ </div> </div>	<p>《整理・分析》</p> <p>調査によって明らかになった問題点を見直し一人一人の問題意識を高める</p> <p>《協同的な学習》</p> <p>話し合いを通して、それぞれの問題の共通点や相違点などに気づく</p>
<p>3. 自分たちにできることについて話し合い、 その中から自分にできることはなにか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害の時のマップや避難マニュアルをつくって提案しよう ・分かりやすい標示や看板を考えて提案しよう ・地域マップづくりをして紹介しよう ・生活ルールブック・マナーブックをつくり多くの人に知ってもらおう 	<p>《課題の設定》</p> <p>話し合いを通して得た様々な考えを参考にしながら、課題意識を高め、自分の課題を設定する</p>

④ 授業の感想

英語だけではなく、韓国語や中国語で表記されたものや外国の人が安心できるもの、相手の立場になって考えることが必要など自分たちの周りの環境を調査し、実感したことが意見として述べられていた。

自分ができることをより具体的に考えよう

- ゴミ出しやイベントの表示には絵や写真を使う
- 病院の中の部屋がわかるようにマークを考える
- 駅や避難所までの地図を作る
- 箸の使い方などの礼儀作法のマナーブックを作る

⑤ 考察と今後の課題

多くの児童が問題に対する解決策について積極的に自分の意見を述べていた。自分たちが調査して得た情報に対して問題意識が生まれているからだと思われる。異なる視点で情報を整理・分析するためには情報を収集する段階で、明確な目的をもち、何のために調べているかを自覚し、行動することが大切である。これにより自分の問題意識をもつことができ、その後の探究的な学習につながると考えられる。授業での話し合いでは、病院の中に外国の人にもわかる案内が必要だという考えに対して、何ヶ国語が必要か、絵で表すのはどうか、どのように作るのか、病院に陳情書を書くなど、実際に自分たちにできる具体的な行動まで考えるのは難しかったようである。話し合いの結果、言葉の問題に関してガイドマップを作成することになったのだが、駅や病院など場所が変わるだけですべての取組がガイドマップ作りになる傾向になった。これについては今後、県や市などの取組を示しながら、自分たちができることを考えさせ、深めていく必要がある。

(3) 職場体験プログラム (27 時間) について

小学校での検証授業を参考に、中学校での職場体験学習を行うための指導計画(表4)を作成した。この指導計画では、総合的な学習の時間における探究的な学習及び協同的な学習を通して、どのように職場体験学習に取り組み、勤労観・職業観をはぐくむことができるかを考えて作成した。指導計画の内容は事前学習を14時間、職場体験を7時間(1日)、事後学習を6時間とし、探究的な学習とするために働くことや職業に就くことについて考えるという職場体験学習のテーマを設定した。このテーマを追究するために、事前学習で職業について調べたり、働く人から実際に話を聞いたりし、そこから得た情報についてグループで話し合う機会を多くもつことにした。そして、一人一人が職場体験学習を通して何を学びたいのか(課題設定)、どのように職場体験を行えば自分の課題に向けて学ぶことができるのか(課題に対する手立て)を考え、どれだけ課題に迫ることができたかという視点で振り返ることが重要だと考えた。具体的な内容については、小学校における探究活動、協同的な学習の視点で行った授業を考察し、互いに評価し合うことで自分の課題が明確になることや何のために調査するのかを自覚することは探究的な学習につながることを参考にした。

職場体験学習プログラム(27時間)

表4

ねらい		時	生徒の学習活動	探究的な活動 評価規準
オリエンテーション(学年全体)				
職業講話を聞き、勤労観・職業観について考える	1	仕事に対する思いや考えに触れることを通して、働くこと、職業に就くことを考える	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域の方々と講師として招き、「働くこと」をテーマに講話を聞く 事前学習で講師の職業について質問したいことをまとめておく 「働くこと」についてわかったこと、疑問に思ったことを記入する 	【課題設定】 働く人の話から職業の内容や職業に対する思いや考えを理解する
「求人案内づくり」				
体験できる職場について調べる	2	求人案内について説明を受ける	<ul style="list-style-type: none"> 求人案内コンテントの実施について説明を受ける 自分たちが調べた仕事をプレゼンし、何人の生徒がその仕事を希望するかを競う 	【課題設定】 職場体験できる職業について調べ、仕事に就くために何が必要とされているかを話し合い、職場訪問で質問することを考える
求人案内作りを通して、仕事内容やそこで働く人たちの仕事に対する思いや考えを知る	3	求人案内に載せる項目や内容について話し合う	<ul style="list-style-type: none"> 求人案内に載せる項目や内容について話し合う 仕事の内容を本やインターネットで調べたり、先輩の体験談を聞いたりして、職場訪問で質問したいことをまとめる 	【課題設定】 職場体験できる職業について調べ、仕事に就くために何が必要とされているかを話し合い、職場訪問で質問することを考える
マナーや礼儀について考える	4	電話での確認、訪問時のインタビューでのマナーについて考え、グループで話し合い、練習する	<ul style="list-style-type: none"> 電話での確認、訪問時のインタビューでのマナーについて考え、グループで話し合い、練習する 放課後を使って、自分たちが調べた職場に電話し、職場体験について説明する 	【課題設定】 社会における様々な場面でのマナーや礼儀を身に付けるために、その意味を考え、身に付ける
調べている職場を訪問する	放	事前に調べた内容から疑問に思ったこと、実際に聞かぬいとわからないことなどを質問する	<ul style="list-style-type: none"> 事前に調べた内容から疑問に思ったこと、実際に聞かぬいとわからないことなどを質問する 仕事に対する考えや思いなどを中心に質問する 事前に考えた質問事項を基に、話の内容に応じた質問を考え、インタビューする 	【情報収集】 仕事内容、その仕事に就くために必要なこと、仕事に対する思いや考えなどについて調べる
働く人へのインタビューを通して、仕事に対する思いや考えに触れる	5	職場訪問でわかったことをグループでまとめる	<ul style="list-style-type: none"> 職場訪問でわかった内容をグループでまとめる 事前に調べた内容や職場訪問でわかった内容を考える 	【整理・分析】 どのような人が求められているか、どんな人が適しているかを考え、それについてグループで話し合い、求人案内にまとめる
発表の準備	6	発表の仕方、原稿作り、内容の見直し、リハーサルなどを行い、よりよい発表になるように工夫する	<ul style="list-style-type: none"> 事前に調べた内容、職場訪問でわかった内容を求人案内表(画用紙)にまとめる 仕事内容、仕事に対する思いから、どのような人材が求められているかを明確にする 実物投影機で求人案内(画用紙)を拡大するなど発表の仕方を考え、うまく伝えられるように工夫する 	【まとめ・表現】 求人案内にまとめた内容について発表し、各グループのプレゼンを通して情報を共有し、体験したい職場について考える
求人案内コンテント	8	求人案内コンテントで自分たちが調べた体験場所をプレゼンし、何人の生徒がその仕事に希望するかを競う	<ul style="list-style-type: none"> 求人案内コンテントで自分たちが調べた体験場所をプレゼンし、何人の生徒がその仕事に希望するかを競う 調べた仕事とそこで働く人の魅力をアピールする 各発表後、質疑応答時間を設ける 	【まとめ・表現】 求人案内にまとめた内容について発表し、各グループのプレゼンを通して情報を共有し、体験したい職場について考える
求人案内作りを通して、仕事内容や職場訪問からわかった働く人の思いや考えを共有する	9	求人案内を掲示し、それぞれの職場で課題として考えられるものをメモ用紙に書いて貼っていく	<ul style="list-style-type: none"> 求人案内を掲示し、それぞれの職場で課題として考えられるものをメモ用紙に書いて貼っていく 思い出した課題をメモ用紙に書いて、できるだけ多くの職場に貼っていく 	【課題設定】 これまでの学習を振り返り、体験場所での目的を明確にし、考えをまとめることよって、具体的な課題の設定につなげる
個人の課題と手立ての設定				
個人の課題とその手立てを考える	10	求人案内に貼ってあるメモ用紙の課題の内容を見ながら、働きたい職場を決定する	<ul style="list-style-type: none"> 求人案内に貼ってあるメモ用紙の課題の内容を見ながら、働きたい職場を決定する 第1～第3希望まで決める その職場を選んだ理由を明確にする 個人の課題の決定・・・「働くことの大切さを知る」「働く人の輝いてるときを知る」など その課題に迫るために、何を学びたいのか、どうすれば学ぶことができるのかを考える 求人案内コンテントの結果を発表する 希望する生徒が多かった職場について発表したグループを表彰する 課題設定として素晴らしいものについても評価する 	【課題設定】 これまでの学習を振り返り、体験場所での目的を明確にし、考えをまとめることよって、具体的な課題の設定につなげる
事前訪問				
事前訪問準備	放	放課後を使って、自分たちが体験する職場に電話で依頼をする	<ul style="list-style-type: none"> 放課後を使って、自分たちが体験する職場に電話で依頼をする 	【課題設定】 これまでの学習を振り返り、体験場所での目的を明確にし、考えをまとめることよって、具体的な課題の設定につなげる
職場への申し込みを通して、必要とされる人材について考える	11	職場体験の申し込みが必要である履歴書(プロフィール)、自己PR用紙を作成する	<ul style="list-style-type: none"> 職場体験の申し込みが必要である履歴書(プロフィール)、自己PR用紙を作成する 求められている人材について考え、これまでの自分自身について振り返る 	【課題設定】 これまでの学習を振り返り、体験場所での目的を明確にし、考えをまとめることよって、具体的な課題の設定につなげる

<p>事前訪問(面接) 事前訪問(面接)を通して、体験したい理由、その職場で学びたいことを明確にする</p>	<p>放</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会でのマナーや礼儀についての学習を振り返り、訪問する ・希望する職場の担当者に職場体験学習について説明し、申し込む ・履歴書(プロフィール)、自己PR用紙を提出し、それを基に面接してもらう ・体験が認められれば、職場体験評価表を渡す ・実際の職場を見て、疑問に思ったことや聞いておきたいことなどを確認する 	<p>【課題設定】 希望する職場でどのような人材が求められているかを考え、自分自身を振り返り、職場体験での課題を決定する</p>
<p>個人の課題と手立ての決定 その職場においてどのような自分の課題に迫ることができるかを考える</p>	<p>12</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前訪問して、気づいたことをもとに、体験先ごとのグループで話し合い、個人の課題とその手立てを決定する ・事前訪問後、職場体験計画書を作成し、担当の先生に提出する 	
<p>職場体験</p>			
<p>職場体験 自分の課題にどのように迫ることができたかを考え、体験したことを記録する</p>	<p>13 ↓ 19</p>	<p>自分の課題に向けて、意欲的に体験活動に取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動内容記録表「職場体験日誌」に記入する ・タイムテーブル(1日の流れと仕事内容)印刷に残ったこと など ・事後訪問の日時を確認し、決定した日時を記載したものを必ず渡す ・職場体験評価表に記入してもらう 	<p>【整理・分析】 自分の課題に対して職場体験から学んだことを整理する</p>
<p>事後訪問</p>			
<p>事後訪問 受け入れてくれた人たちの気持ちについて考え、お世話になった人に感謝し、お礼の手紙を書く</p>	<p>20</p>	<p>体験場所を訪問し、お礼の手紙を渡す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験先へのお礼の手紙を書く ・放課後、手紙と発表会の案内状を体験場所に持っていく 	<p>【整理・分析】 体験先でお世話になった人々への感謝の気持ちを手紙に書くことで、職場での自分の活動について振り返る</p>
<p>個人レポートの作成</p>			
<p>職場体験の振り返り 自分の課題に迫ることから、働くことについてどのようなことを学ぶことができたかを考え、レポートにまとめる</p>	<p>21</p>	<p>職場体験学習を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習で収集した情報と、体験で学んだことの違いを考えさせる ・個人の課題への自己の取組を評価する ・働くことについて気づいたこと、考えたこと ・自分の課題に対する結論をまとめる ・働くことや働いている人の仕事に対する思いや考えについて考え、自分なりに考えたことや学んだことなどを考え、体験で学んだことを基に、自己の生き方について考え、これからの自分に必要なことや課題となることを考える 	<p>【整理・分析】 職場体験を振り返り、自分の課題にどれだけ迫ることができたか、その手立てとして何ができたのかを整理・分析し、自己評価する</p>
<p>発表会の準備</p>			
<p>発表の内容・仕方の工夫 働くことを理解するというテーマに沿って、自分の課題に対する結論をまとめ、発表の形式を工夫する</p>	<p>22</p>	<p>体験グループで各自の体験について意見交換し、働くことをテーマに発表の内容をまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験グループで各自の体験について意見交換し、働くことをテーマに発表の内容をまとめる ・体験グループごとのグループに分かれ、ワークシートなどを見直し、これまでの職場体験学習の取組を振り返る ・振り返りから、一番働くことについて学んだこと、考えたりすることができた活動について意見交換する ・職場体験を通して自分の課題に対して学んだことについて発表し合い、働くことについて考える ・発表の仕方はプレゼン形式で行い、内容を画用紙などにまとめる ・写真やインタビューしたことなど、実際の職場の様子を伝えられるようなものを必ず入れる ・全員が職場体験とこれまでの職場体験学習の中から1つ選択して、働くことについて学んだことを発表する ・発表の内容について話し合い、リハーサルなどを通して自分達の発表を点検する ・体験先の方に見てもらいたいことを意識しながら、発表の準備を進める 	
<p>発表会の準備</p>			
<p>発表の内容・仕方の工夫 働くことを理解するというテーマに沿って、自分の課題に対する結論をまとめ、発表の形式を工夫する</p>	<p>23 24</p>	<p>体験場所ごとのグループに分かれ、ワークシートなどを見直し、これまでの職場体験学習の取組を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りから、一番働くことについて学んだこと、考えたりすることができた活動について意見交換する ・職場体験を通して自分の課題に対して学んだことについて発表し合い、働くことについて考える ・発表の仕方はプレゼン形式で行い、内容を画用紙などにまとめる ・写真やインタビューしたことなど、実際の職場の様子を伝えられるようなものを必ず入れる ・全員が職場体験とこれまでの職場体験学習の中から1つ選択して、働くことについて学んだことを発表する ・発表の内容について話し合い、リハーサルなどを通して自分達の発表を点検する ・体験先の方に見てもらいたいことを意識しながら、発表の準備を進める 	<p>【まとめ・表現】 わかりやすく伝えるための方法を考え、働くことについて学んだことを中心に内容を整理し、発表の準備をする</p>
<p>職場体験学習発表会</p>			
<p>職場体験学習発表会 発表を通して一人一人が学んだことを共有し、自分が学んだことと関連付けながら考え、振り返る</p>	<p>25 26</p>	<p>体験先グループの発表を通して、活動内容や働くことについて考え、学んだことの共有を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働く人の仕事に対する様々な思いや考えを発表を通して知る ・発表会を通して働くことについて考えたことや学んだことまとめる、今後の自分の課題につなげる 	<p>【整理・分析】 体験で学んだことを共有し、自分が学んだことを見つめ直す</p>
<p>学習のまとめ</p>			
<p>今後の課題について考える 職場体験学習全体を通して、学んだことや考えたことを基に、今後の目標や課題について考える</p>	<p>27</p>	<p>職場体験学習全体を通して、自分自身の取組を振り返り、働くことについて学んだことについて学んだことを基に、自己の生き方について考え、新たな課題を設定する</p>	<p>【課題設定】 これまでの活動を振り返り、自分自身の生き方について考え、新たな課題を設定する</p>

(4) 検証授業 C 中学校2年 「職業について知ろう」

① 探究的な学習における目的と視点

中学校2年生を対象に職場体験学習として職業講話を実施した。働くことに関するテーマを6つ用意し、一つのテーマに対して5人の講師全員に話をしてもらった。それぞれのテーマに対して5人の講師の話を聞くことで、話している内容が明確になり、講話を通して働くことや職業に就くことに関する考えの共通点や相違点をはっきりと認識することができた。そして、その仕事の特徴や仕事に就いた理由、仕事に対する思いや考えなどを聞き、講話の内容ごとにわかったことや疑問に思ったことをグループで話し合い、質問の内容を考えるようにした。講話を通して得た情報や学んだことを整理し、働くことや職業に就くことについて考えを深めることで、職場体験学習への意欲を高め、課題設定につながると考えた。

② 探究的・協同的な学習における具体的な生徒の活動

探究活動 (課題設定)	働く人から実際に話を聞き、仕事に対する思いや考えを知ることで、働くことや職業に就くことについて学び、個人の課題設定について考える
協同的な活動	身近で働く人々との交流を通して働くことや職業に就くことを学び、様々な視点からグループで意見交換し、質問内容について考える

③ 本時の展開 (職場体験プログラム 1・2/30)

探究活動・協同的な学習

生徒の活動	探究的、協同的な活動
<p>前時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講話で話してもらったテーマについて職業ごとに考え、 → 聞きたいことや興味のあることを書く ・聞きたいことをグループの中で発表し、話し合い、 重要だと思われるものから順位をつける → <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>講話のテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 仕事の内容や特色 ○ その仕事に就いた理由 ○ 仕事をして楽しいこと、つらいこと ○ その仕事に向いていると思われるタイプ ○ 将来の希望や夢 ○ 中学生に向けてのアドバイス </div> <p>当日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館に集まり、クラス別、班ごとになり、講師を囲むように着席する 	<p>《課題の設定》</p> <p>講話のテーマを基に、講師の職業について考え、質問したいことをまとめる</p> <p>《協同的な活動》</p> <p>グループでの話し合いを通して、それぞれの仕事について意見交換し質問内容を検討していくことで職業についての理解を深める</p>

生徒の活動	探究的・協同的な活動
<p>1. 講師の紹介を聞く</p> <p>2. 5人の講師の講話を聞く</p> <p>3. 1つのテーマごとに、全員の講師の講話が終わったら、 グループで相談し、聞きたいことを質問する</p> <p>4. 代表者がお礼の言葉を述べる</p> <p>5. クラスに戻り、働くことについて印象に残ったこと、 考えたことをまとめる</p>	<p>《情報収集》 自分が想像していた仕事内容と比べながら講話を聞き、働くこと、職業に就くことについて考えるために必要な情報を収集する</p> <p>《整理・分析》 それぞれの講師の講話から働くことや職業に就くことに対する思いや考えの共通点や相違点について考える</p> <p>《協同的な活動》 講話の内容についてグループで意見交換し、講師の方々との質疑応答を通して、それぞれのテーマについての考えを深める</p> <p>《まとめ・表現》 それぞれの講師の話聞き、働くこと、職業に就くことについて自分なりに考えたことをまとめる</p>

④ 職業講話の感想

働くことは大変でつらいことも楽しいこともある、自分の好きなことを見つけて仕事にしたい、勉強することは大事だななど前向きな考えの感想が多かった。また、仕事内容も自分の想像とは違ったという感想も多かった。

働くことについて考えたこと、学んだこと、わかったことなど

- ・ 働くのは大変で、疲れるけど、楽しいこともある
- ・ 中学、高校時代は将来のことを考えるための大事な時期だ
- ・ やりたいことができる仕事は素晴らしい
- ・ 努力と勉強は大切だ
- ・ 自分のことをよく理解して進路を決めたい
- ・ なぜその仕事に就きたいのか、本当に興味がある仕事なのかを考える必要がある

⑤ 考察と今後の課題

職業講話では1つのテーマごとに講師全員に話をしてもらい、働くことや職業に就くことに関する内容に絞って話を聞くことができた。また、それぞれの講師の仕事に対する思いや考えの違いなどが明確になり、一人一人が様々な思いで働いていることを学ぶことができた。一つのテーマごとに質疑応答の時間を設け、グループで話の内容について話し合うことによって、共通していることや違っていることを確認したり、講話の内容に応じた適切な質問をリストの中から選んだり、新たな質問についても考えることができた。質疑応答や助言などを通し、講師と交流することで、働くことがより現実的なものとなり、職場体験に向けての課題設定につなげることができた。今後の課題として、今回のような職業講話の実施方法では働くことに関する一つのテーマに対して、それぞれの講師

から様々な思いや考えを聞くことができるが、1人の講師の生き方という部分を伝えるのは難しいと感じた。他者の生き方に触れることによって自己の生き方を見つめ直し、働くこと、職業に就くことを考える動機付けとなる。この点について考慮し、職業講話の形態について検討する必要があると思われる。

Ⅲ 研究のまとめ

成果と課題

総合的な学習の時間における探究的な学習、協同的な学習を通して、どのように職場体験学習に取り組むことができるかについて研究を行った。探究的な学習の「まとめ・表現」では、アドバイスの書かれた付箋を交換し、これまでの学習について互いに評価するという振り返り活動を行った。この活動を通し、発表する内容や方法を工夫していくことで、新たな疑問や課題を見付けることができた。

「整理・分析」では、調査結果について話し合い、整理・分析するためには情報収集の段階で、何について調べているのかという明確な目的意識をもって調べることが重要であり、目的意識の高さが十分な情報収集や整理・分析、新たな課題設定につながるが見えてきた。「課題設定」では、職場体験学習を始める段階で、働くことや職業に就くとはどういうことなのかを考えるというテーマを設定し、職場体験学習を通して、どのような個人の課題を設定するか、その課題にどのように迫ることができるかを考えることに十分な時間を掛ける必要があることがわかった。先輩の職場体験の話や働く人々から実際に話を聞くことができる職業講話などを通して、自分の想像していたものとの違いに気づいたり、そこから疑問や興味がうながされ、探究的な学習へと発展していくのだと考える。検証授業の職業講話では、働くことに関する6つのテーマを提示し、5人の講師から話を聞いた。仕事に対する思いや考えを中心に話を聞くことで、働くことや職業に就くことを考えることができ、職場体験を通して、自己の生き方を考えることにつながるのではないと思われる。

協同的な学習では異なる視点から考える活動や力を合わせて交流する活動を設定し、個人の考えをグループで話し合うような取組を多く実施した。発表会に向けてのリハーサルをグループで互いに見せ合い、アドバイスの書かれた付箋を交換したり、職業講話では仕事についての話を聞く前に、グループで話し合い、仕事内容や仕事に就いた理由などを想像した。特に、職場体験学習では、実際に働く人から話を聞いたり、仲間と話をしたりしながら多くの情報を共有し、話し合うような活動が探究的な学習を進める上で重要だと思われる。

今後の課題として次の3つが考えられる。

- 職場体験学習において探究的な学習、協同的な学習の視点を明確にした指導計画と活動の中で用いることができるワークシートを作成したが、その内容や活用場面及び活用方法についてさらに検証していかなければならない。
- 27時間分すべての検証授業が行えなかったため、指導計画がより探究的な学習になるために修正していく必要がある。
- 働くこと、職業に就くことを直接考えるよりも、様々な活動を通して、考えたり調べたりしながら、どのような人材が求められるかを考えることで探究的な学習となり、自分の課題を見付けることにつながるのではないだろうか。したがって、指導計画の中に働くこと、職業に就くことについて考えることにつながるような具体的な活動をさらに考えていかなければならない。

最後に、研究を進めるに当たり、ご支援、ご助言をくださいました講師の先生方、また、校長先生を始め学校教職員の皆様に、心より感謝し厚くお礼申し上げます。

【参考文献】

滋賀大学教育学部附属中学校	『生きる力を育てる総合学習の実践』 明治図書	1997年
山極隆・田中博之	『総合的な学習をどう創るか』 明治図書	1999年
鹿嶋研之助	『進路指導を生かす総合的な学習』 実業之日本社	2000年
佐藤学	『学びから逃走する子どもたち』 岩波書店	2000年
進路力を育てるネットワーク	「中学生の進路力を育てる総合的な生き方の学習プラン」 実業之日本社	2001年
文部科学省	「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」	2004年
文部科学省	「中等教育資料 No.813 (2月号)」 ぎょうせい	2004年
堀川博基	『職場体験プラスαの生き方学習』 実業之日本社	2004年
三村隆男	『キャリア教育入門』 実業之日本社	2004年
三村隆男	『はじめる小学校キャリア教育』 実業之日本社	2004年
沼津市原東小学校・三村隆男	『キャリア教育が小学校を変える！』 実業之日本社	2005年
北川達夫	『フィンランドメソッド入門』 経済界	2005年
日本教育評価研究会	「指導と評価 vol.52 (5月号)」 図書文化社	2006年
亀井浩明・鹿嶋研之助	『小中学校のキャリア教育実践プログラム』 ぎょうせい	2006年
文部科学省	「初等教育資料 No.821 (3月号)」 東洋館出版社	2007年
渡辺健介	『世界一やさしい問題解決の授業』 ダイアモンド社	2007年
埼玉県中学校進路指導研究会	『新しい時代の生徒を育てる中学校キャリア教育』 実業之日本社	2007年
文部科学省	「平成19年度小学校・中学校・高等学校『総合的な学習の時間』 研究協議会実施要項・関係資料」	2008年
川崎市教育委員会	「小学校生活科・総合的な学習の時間 一人一人の個性を生かす学習指導評価の資料Ⅶ」	2008年
神奈川県教育委員会	「充実した職場体験の推進に向けて」	2008年

【指導助言者】

千葉商科大学教授	鹿嶋 研之助
川崎市立日吉中学校長	中島 みどり
川崎市立長沢小学校長	常木 初野
川崎市総合教育センター指導主事	藤中 大洋